

広島県空手道連盟 創立50周年記念

広島県空手道連盟は、西暦2019年11月に創立50周年を迎えます。これを記念して、一部ではありますが記録を記載いたします。

団体設立年月日	昭和44年(1969年)11月 7日
---------	--------------------

広島県空手道連盟役員経歴

年度・期間	会長	副会長			理事長	副理事長		事務局長	全空連役員	全空連評議員
1969/11/17 ～										
1976/4/1 ～ 1978/3/31	佐々木 隆	山下 正男	槌本 謙三	里信 昌男	十島 博徳			野島 千佳		山根 成美
1978/4/1 ～ 1980/3/31	佐々木 隆	槌本 謙三	里信 昌男		山根 成美			野島 千佳		山根 成美
1980/4/1 ～ 1982/3/31	佐々木 隆	槌本 謙三	里信 昌男		山根 成美	秋光 潔		玉田 卓		山根 成美
1982/4/1 ～ 1984/3/31	佐々木 隆	槌本 謙三	里信 昌男		山根 成美	秋光 潔		玉田 卓		山根 成美
1984/4/1 ～ 1985/3/31	佐々木 隆	槌本 謙三	里信 昌男		山根 成美	秋光 潔		玉田 卓		山根 成美
1985/4/1 ～ 1986/3/31	佐々木 隆	槌本 謙三	山下 正男	里信 昌男	山根 成美	秋光 潔		玉田 卓		山根 成美
1986/4/1 ～ 1987/3/31	佐々木 隆	槌本 謙三	山下 正男	里信 昌男	山根 成美	秋光 潔		山根 成美		山根 成美
1987/4/1 ～ 1989/3/31	佐々木 隆	槌本 謙三	山下 正男	里信 昌男	山根 成美	秋光 潔		松原 伸		山根 成美
1989/4/1 ～ 1991/3/31	佐々木 隆	山下 正男	里信 昌男	村上 仁志	山根 成美	吉野 晴雄	松富 哲生	松原 伸		松富 哲生
1991/4/1 ～ 1992/3/31	佐々木 隆	山下 正男	里信 昌男	村上 仁志	山根 成美	野島 千佳	松富 哲生	松原 伸		松富 哲生
1992/4/1 ～ 1993/3/31	佐々木 隆	山下 正男	里信 昌男	村上 仁志	山根 成美	野島 千佳	松富 哲生	松原 伸		松富 哲生
1993/4/1 ～ 1995/3/31	田中 隆荘	山下 正男	里信 昌男	村上 仁志	山根 成美	野島 千佳	松富 哲生	松下 昇治	山根 成美(常任理事)	野島 千佳
1995/4/1 ～ 1997/3/31	田中 隆荘	山下 正男	里信 昌男	村上 仁志	山根 成美	野島 千佳	金尾 良文	松下 昇治	山根 成美(相談役)	野島 千佳
1997/4/1 ～ 1999/3/31	田中 隆荘	山下 正男	里信 昌男	村上 仁志	山根 成美	野島 千佳	金尾 良文	松下 昇治	山根 成美(相談役)	松下 昇治
1999/4/1 ～ 2001/3/31	田中 隆荘	山根 成美			野島 千佳	松富 哲生		松下 昇治	山根 成美(相談役)	松下 昇治
2001/4/1 ～ 2003/3/31	田中 隆荘	山根 成美			野島 千佳	松富 哲生		松下 昇治	山根 成美(相談役)	松下 昇治
2003/4/1 ～ 2005/3/31	田中 隆荘	山根 成美			野島 千佳	松富 哲生		松下 昇治	山根 成美(相談役)	松下 昇治
2005/4/1 ～ 2007/3/31	亀井 郁夫	野島 千佳			松下 昇治	林 楯夫		松野 一弘	山根 成美(相談役)	松下 昇治
2007/4/1 ～ 2009/3/31	亀井 郁夫	野島 千佳			松下 昇治	林 楯夫		篠原 正道	山根 成美(相談役)	松下 昇治
2009/4/1 ～ 2011/3/31	亀井 郁夫	野島 千佳			松下 昇治	林 楯夫		篠原 正道	山根 成美(相談役)	松下 昇治
2011/4/1 ～ 2013/3/31	亀井 郁夫	野島 千佳			松下 昇治	林 楯夫		篠原 正道	山根 成美(相談役)	松下 昇治
2013/4/1 ～ 2015/3/31	藤田 楯彦	野島 千佳	松下 昇治		篠原 正道	灘 増男	金尾 良文	芥川 佳子	山根 成美(特別顧問)	松下 昇治
2015/4/1 ～ 2017/3/31	藤田 楯彦	松下 昇治	田中 一基		篠原 正道	灘 増男	金尾 良文	芥川 佳子		芥川 佳子
2017/4/1 ～ 2018/3/31	藤田 楯彦	松下 昇治	田中 一基		篠原 正道	灘 増男	金尾 良文	森田 眞吾		芥川 佳子
2018/4/1 ～ 2019/3/31	田中 一基	松下 昇治			篠原 正道	灘 増男	金尾 良文	森田 眞吾		芥川 佳子
2019/4/1 ～ 2021/3/31	田中 一基				篠原 正道	灘 増男	金尾 良文	森田 眞吾	山根 成美(相談役)	芥川 佳子

大規模大会主管

年度	事業名等
1994年	アジア大会空手道競技
1996年	第51回国民体育大会
2006年	マスターズ2006
2012年	第20回全国中学生空手道選手権大会

＜広島県空手道連盟の軌跡について＞

昭和44年(1969年)11月7日に広島県空手道連盟を設立し、昭和39年(1964年)10月に設立された全日本空手道連盟に加盟した。連盟結成までは、「和道会・糸州会・谷派糸東流修交会・正気会等」で活動していた。昭和49年(1974年)に広島県立国泰寺高校通信教育部(海上自衛隊少年術科学学校)と呉港高等学校の2校で広島県高等学校空手道連盟を設立した。第1回広島県空手道選手権大会は昭和51年(1976年)3月31日に広島県立体育館第2別館で開催し、第1回広島県高等学校空手道選手権大会は昭和53年(1978年)6月11日に広島県立誠之館高等学校で行われた。なお、平成11(1999年)4月に本連盟の構成は郡・市・中空連・高等学校・中四国学生連盟等に改定された。

＜空手道の国民体育大会参加と競技の変遷について＞

昭和53年(1978年)第33回長野国体から空手道が国体公開競技として参入し、続く第34回宮崎国体、第35回栃木国体を経て昭和56年(1981年)第36回滋賀国体から正式種目となった。平成8年(1996年)第51回広島国体が庄原市総合体育館で開催され、広島県チームは男・女総合優勝を果たした。翌年平成9年(1997年)第52回大阪国体から2名監督制(男子監督・女子監督)が1名に変わった。平成10年(1998年)第53回神奈川国体で少年女子組手優勝(安芸府中高等学校:中山梨奈)。平成14年(2002年)第57回高知国体で団体組手優勝(友貞 太・江島太士・肱岡勝寿)。平成19年(2007年)秋田国体で少年女子組手優勝(海田高等学校:松野加奈)。平成20年(2008年)第63回大分国体から団体組手(男子3人制)が男女混合に変わり、少年男子形競技が新設された。競技種目の増加により形競技の選出方法が県代表からブロック代表に変わり、国民体育大会中国地区ブロック大会による選出になった。

＜中国地区空手道選手権大会について＞

昭和54年(1979年)7月22日、第1回中国地区空手道選手権大会が広島県(東洋工業体育館:現マツダ体育館)で開催された。平成5年(1993年)11月21日、第1回中国地区少年少女空手道選手権大会が広島県庄原市総合体育館で第15回中国地区空手道選手権大会とは別日程で開催された。平成11年(1999年)7月25日、第1回中国地区中学生空手道選手権大会が岡山県武道館で第21回中国地区空手道選手権大会と同日に開催された。今年、令和元年(2019年)の中国地区空手道選手権大会は第41回、中国地区少年少女空手道選手権大会は第27回、中国地区中学生空手道選手権大会は第21回を島根県松江総合体育館で迎える。

<全日本空手道選手権大会と競技の変遷について>

第1回大会は昭和44年(1969年)10月10日、日本武道館で開催され、成年男子個人組手と男子団体組手の2種目で行われた。昭和48年(1973年)第3回大会(神戸市立中央体育館)から女子形競技が追加された。昭和51年(1976年)第5回大会(大阪府立体育館)から男子形競技が追加された。昭和53年(1978年)第6回大会(長野県営体育館)から昭和55年(1980年)第8回大会(栃木県立体育館)までは国民体育大会公開競技と兼ねて行われた。第6回大会は男子個人組手に階級制(身長:S級・M級・L級・無差別)が採用された。翌年、第7回大会(宮崎国体:宮崎県体育館)、第8回大会(栃木国体:栃木県体育館)では男子個人組手の階級制が体重別(軽量級・中量級・重量級・無差別級)に変更された。昭和56年(1981年)第9回大会(東京都羽村町スポーツセンター)から男子個人組手の体重別が廃止されオープンになり、女子の組手競技が追加された。この大会から平成3年(1991年)第19回大会までは男子組手と女子組手競技のみで、男・女形競技が開催されない期間があった。そして平成4年(1992年)第20回大会から男子形競技・女子形競技が復活した。平成20年(2008年)第36回大会から男子団体組手・女子団体組手が新設された。平成28年(2016年)第44回大会から男子組手競技個人戦優勝者に天皇杯、女子組手競技個人戦優勝者に皇后盃が授与されることが決定した。

<中国地区少年少女空手道選手権大会について・・・1993年第1回開催>

中国地区大会は、1979年から少年(高校生)と一般で行われてきた大会である。1996年広島国体の開催(庄原市)にあたり、ジュニアの競技力向上を目的に、小学5年生から中学3年生までの大会として、1993年第1回大会を1日目に行うこととなった。その時点ではジュニア強化選手制度がなかったため、大会前に数回強化練習会を行った。

<広島県ジュニア強化について・・・1997年開始>

1996年の広島国体後、「国体少年選手の強化、少年選手の育成をする」ことを目的に、広島県体育協会から国体競技すべてが行うように指導があり、1997年から始まった。予算書作成など白紙の状態から企画・立案・運営し、中国大会の選手も考慮したうえで、小学5年生から中学3年生を対象とし、現在に至る。

<広島県中学生空手道選手権大会について・・・1996年第1回開催>

1993年から一部の参加で行われていた全国中学生空手道選手権大会についての情報を知らず、1995年中国地区大会を訪ねてきた全国中学校空手道連盟常任理事から話を聞き知るところとなる。申込期限が迫っていたため、中国地区大会出場者から希望者を募り、選手7名と保護者を引率して、第3回全中大会(東京都)に参加する。

帰広後、誰もが情報を知り参加できる予選大会となる県大会の企画・立案をし、広島県空手道連盟の理事会に議案提出するも、「時期尚早」ということで却下される。秋に県スポ少大会(現、県民大会)にて配布した「準備委員会」募集に共感した十数名の指導者・保護者の方々とともに、第1回大会を開催することができた。

<広島県小学生空手道選手権大会について・・・2002年第1回開催>

2001年から全国少年少女空手道選手権大会が開催されたが、このことについての情報を知らず、第1回はジュニア強化選手から選考して選出した。

誰もが情報を知り参加できる予選大会となる県大会の企画・立案をし、広島県空手道連盟の理事会に議案提出するも、どの地区連盟も担当できないということとなった。そこで、県中学生大会と同時開催することとし、第1回大会を開催することができた。東広島運動公園体育館が連日使用できるようになってからは、中学生大会と2日間に分けて1年生からの大会とすることができた。